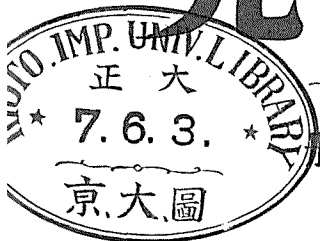


大正五年四月六日第三種郵便物認可

大正七年五月二十七日印刷納本(毎月一回一日發行)

哲學研究



第參卷 第六册

第七十二號

大正七年六月一日發行

感 覺	文學博士	西田幾多郎
識別作用の非相稱性に關する實驗的研究	文學士	千葉胤成
ロツツエ 妥當説の由來(承前)	文學士	錦田義富
美學の基礎に就ての考察(完結)	文學博士	深田康算
フイドラア「近代自然派と藝術上の眞」	文學士	勝部謙造
彙報		
新著紹介		

京都帝國大學文學科大學內

京都哲學會

雜 204

京都哲學會規則

第一條 本會ヲ京都哲學會ト稱ス

第二條 本會ハ廣義ニ於ケル哲學ノ研究及其普及ヲ以テ目的トス

第三條 本會ハ前條ノ目的ヲ達センガ爲メ左ノ事業ヲ行フ

一、毎月一回研究會ヲ開ク

一、毎年春秋二回公開講演會ヲ開ク

一、毎月一回雜誌『哲學研究』ヲ發行ス

第四條 本會事務所ヲ京都帝國大學文科大學内ニ置ク

第五條 本會ノ事業ヲ經營スル爲メニ左ノ役員ヲ置ク

一、委員(若干名) 京都帝國大學文科大學哲學科教官及委員會

ニ於テ推薦シタル者ヲ以テ之ニ充ツ

一、書記(一名) 委員會ニ於テ囑託ス

第六條 本會ノ趣旨ニ賛同スル者ハ何人ニテモ會員タルコトヲ得

學校、圖書館、教育會、其他ノ團體ハ其團體ノ名ヲ以テ入會スル

コトヲ得

第七條 會員ハ會費トシテ年貳圓八拾錢、前後二期ニ分テテ前納ス

ベキモノトス

第八條 會員ハ本會ノ諸種ノ會合ニ出席スルコトヲ得且ツ雜誌『哲

學研究』ノ配付ヲ受ク

第九條 本會規則ノ改正變更ハ委員會ノ決議ニ依ル

京都哲學會役員

委員

文學博士 波多野精一

文學博士 西田幾多郎

文學博士 朝永三十郎

文學士 千葉胤成

文學博士 狩野直喜

文學博士 米田庄太郎

文學博士 高瀬武次郎

文學士 植田壽藏

文學士 野上俊夫

文學博士 松本文三郎

文學博士 深田康算

文學博士 藤井健治郎

文學博士 小西重直

寶嚴方治

書記

介され、かくて、新發見の梵文を妙本と比較して、本文的價値を推察し、一々梵文を表記して一目判然とした精密な論文である。法華研究を當面的として居る同氏の如きに取つて、斯る新材料の提給を得たのは、恰も旱天に雲霓を望んだ感があつたらうが、その勢は、論究の上に歴々と印して居る。同好専門家の愛讀を切に歎めて置く。次に萩原氏の梵文無量壽經批議も、先號からの続きで、本號には、四十一節から最後七十八節に至る迄の梵語字句の詳密な批評が加へられてある。同經の研究上、少なからぬヒントを與へるであろう事は云ふ迄も無く、吾人は斯る批議に刺戟されて、本文を詳細するの慣習を養成したいと思ふ。後學の吾人は深く氏に感謝して然る可きである。以上は本欄の太要であるが、尙ほ雜纂中には在印度甲谷他の同教達氏が、『現存佛教梵本日録』なる者を報ぜられ、五十九種の現存梵本について、一々經題とその説明、註解、作者杯を指要せられてある。多くは秘密部の儀軌類が主であるらしいが、實地に彼に在て研究しつゝある者の、斯る報告は、吾人を利する處尠少でないから、大に歡迎すべきである。尙ほ終りに一言して置き度いのは、宗教研究會が成立以來、日尙ほ深からぬのに、漸次會員も増加し、社會の道俗何れを問はず、此の眞摯な研究機關に依て、宗教の新生命を捕へようとする士の擧つて集り來る事は、洵に慶幸に堪へない事であるが、會員外の士も、大に隨贊愛讀するの、増加せん事を希望して已まない者である。東京博文館發行。定價七十五錢(手島文倉)

佛像の研究

小野玄妙著

九八

この書は、印度、支那、日本に流傳せる大小顯密の佛像の形相を經律儀軌の本文に據つて説明したものである、序説に於て佛像研究の用意、造像の三大史的變遷、佛像の安置せられたる方式に據る觀察の仕方、變相、眞言の修法と其本尊、曼荼羅の種類等、要するに『何佛の像であるか』と言ふことを觀察する上の一般的知識を與へ、進んで第二章以下に於て、佛菩薩明王天部の諸像を網羅して、夫れを一々平易に且つ簡明に説述する。著者の言ふ如く、さきに同氏の著した『佛教美術概論』の各論の一部に相當するもので、佛教美術に關し、この方面の知識を必要とする種々の研究純美術的研究以外の諸種の研究に従ふ人が彼の書と共に必ず參考に供すべき有用なる著書である。東京市小石川區原町六番地丙午出版社發行定價金二圓。(植田)

寄贈書籍雜誌

日本基督教史 山本秀雄著 洛陽堂
 スズノサ哲學大要(エチカ) 文學士小尾鐘治譯 岩波書店
 天竺四教儀禮話 境野黃洋著 丙午出版社
 哲學雜誌 思湖 丁酉倫理講演集 心理研究 六合雜誌 東洋哲學 無盡燈 東亞之光 早稻田文學 學校教育 教育内外教育評論 普通教育 教育研究 教育學界 教育界 教育時論 東京

教育 兵庫教育 静岡縣教育 滋賀縣教育會雜誌 岐阜縣教育
 愛知教育雜誌 長崎縣教育雜誌 都市教育 信濃教育 佐賀縣教
 育 青森縣教育 宮城教育 山形縣教育 秋田縣教育雜誌

前 號 目 次

喜劇と妄想……………	醫學博士	今村新吉
カトライルの思想の哲學的背景……………	文學博士	朝永三十郎
美術史の對象……………	文學士	植田壽藏
ストゥムプの情覺説(完結)……………	文學士	野上俊夫
左右田博士の著『經濟哲學の諸問題』を讀む……………	文學士	田邊元

彙報——新著紹介

命 告 價 定 規 文 註

一、本會へ入會希望ノ方ハ直接本會宛テニ御申込被下度候
 一、會員ニシテ轉居セラレタル節ハ直チニ其旨御報知被下度候

一、會費ハ振替口座大阪參〇六六參番、京都哲學會宛テニ御拂込被下度候
 一、本誌ノ編輯ニ關スル通信及紹介・新刊書・交換雜誌等ハ凡テ本會宛テニ御發送被下度候

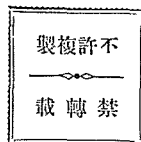
京都帝國大學
 文科大學内
 京都哲學會
 振替口座大阪參〇六六參番

冊	數	定 價	一 郵 稅
一冊	冊	金貳拾五錢	金壹錢
六冊(前金)	冊	金壹圓五拾錢	不申
十二冊(前金)	冊	金參圓	不申

廣告料 一頁 金拾圓 半頁 金六圓

◎會員にあらざる譯讀者の御註文及び廣告に關する件は寶文館へ御申込下され度候
 ◎本誌の御註文はすべて代金郵稅共前金にて御送り下さるべく候
 ◎振替貯金にて御送金は(東京二八〇番)寶文館宛に願上候
 ◎前金切れの場合は帶封に「前金切」の印章押捺致すべきに付直に御拂込下され度候
 ◎見本御入用の場合は金貳拾錢御送り下され度候
 ◎特に請求書及領收書等を要する場合は郵券三錢御送付下され度候

大正七年五月二十七日印刷納本
 大正七年六月一日發行
 第二十七號 第六卷



編輯者 京都帝國大學文科大學内
 右代表者 京都哲學會

發行者 寶殿方治
 印刷者 大葉久吉

印刷所 青柳十一郎
 秀英舎第一工場

發行所 東京日本橋區本石町三丁目
 (振替口座東京二八〇番) 寶文館

發賣元 東京市日本橋區本石町三丁目
 大阪市東區淡路町四丁目 寶文館

賣捌所 (東京) 東京堂、東海堂、北隆館、
 良明堂、上田屋 (大阪) 盛文館
 (京都) 寶文館 (神戸) 寶文館

●著名の一唯界論辯●

哲學研究

第二十七號

第三卷 第六册

大正七年(每月一回) 六月一日發行(一日發行)

(大正五年四月六日) (第三種郵便物認可)

定價金貳拾五錢

辯論の巧なる者は勝つ

速に本書の備付切望す

再版

論辯學奧義

東京帝國大學
文科大學講師

文學士 今

福

忍著

本書は論理學の大家たる今福先生苦心の成果にして、本邦唯一の應用論
理書なり。方今雄辯術に關する著書尠からずと雖も、未だ本書の如く、徹底
的に論理の應用を説けるものあるを見ず。現代論辯界の缺陷も亦大なり
といふべし。著者茲に見る所あり、苦心數年稿漸く成りて、今回之を公にせ
らる。本書は其名の示す如く、論場唯一の必携にして、叙する所極めて詳細、
而かも東洋の論理たる因明をも融化して、渾然たる論辯の一系統を組織
す。即ち先づ論題の性質論、立證の責任論、證據の種類等を詳叙し、又立論法
を細説して、之に對する謬論を明かにし、駁論、論破の諸方法をも明示し、さ
ては論議、演説、討論の心得にまでも言及せり。されば彼のデイレンマにか
かれる者も亦本書を一閱せば、忽ち其陷穽を脱出するの道を發見するを
得ん。引例又最近活社會の活事例を採る。苟くも言論を以て世に立たんと
する者の一讀を要するもの、乃ち敢て本書の備付を學生・教師・政治家各位
に薦む。

布裝美本全一册
定價金九拾錢
送料金八錢

大坂市東區淡路町
(振替大坂三四)

寶文館

東京市日本橋區石町
(振替東京二八〇)